

世界ものづくりサミット2011

シンポジウム

13:00~16:30

最先端技術が導くフューチャーライフィノベーション

シンポジウムプログラム

コーディネーター：浅田 稔(大阪大学工学研究科 教授)

13:00~	開会挨拶	平松邦夫(大阪市長(予定))	15:00~	質疑応答 (15:05~15:15 休憩)	
13:05~		馬場章夫(大阪大学副学長)	15:15~	基調講演 テーマ サイエンス&テクノロジー、デザイン、アート	“Future life supported by Science, Tecnology and Art” 伊レオナルド・ダ・ヴィンチ 記念国立科学技術博物館 Galli館長
13:15~	基調講演 テーマ QoLTとその都市への展開	「QoLTの開発と展開-ピッツバーグの経験」 CMU金出武雄所長(QoLTセンター所長)	15:40~	質疑応答	
13:40~		「クラウドネットワークロボティクスによるうめきた展開」 (株)国際電気通信基礎技術研究所 知能ロボティクス研究所 萩田 紀博所長	15:50~	パネル ディスカッション	基調講演者 ゲスト 株式会社マッスル 代表取締役 玉井 博文
14:05~	質疑応答		16:30	閉会	
14:10~	基調講演 テーマ 未来医療のあり方	“Future Hospital (tentative)” 米InTouch Health 代表 Yulun Wang氏			
14:35~		「うめきたでのまちなか未来医療のありかた(仮題)」 大阪大学医学部附属病院 未来医療センター 梅垣昌士 准教授			

ゲストパネリスト **金出 武雄**

1976年 京都大学情報工学科助教
1985年 カーネギーメロン大学教授
1993年 カーネギーメロン大学U. A. and Helen Whitaker記念全学教授
専門分野はロボット工学・情報工学(人工知能・計算機視覚の基礎理論・視覚を用いた自律ロボット・新しい映像メディアとその応用・医用ロボット)
受賞/Franklin Bower賞、大川賞、Allen Newell賞、C&C賞、立石特別賞、FIT 船井素雄賞、Joseph Engelberger賞、人工知能学会業績賞、IEEE Robotics and Automation Pioneer賞、IEEE PAMI Azriel Rosenfeld Lifetime Achievement賞、Marr賞など多数受賞。

ゲストパネリスト **萩田 紀博**

1978年 日本電信電話公社 武蔵野電気通信研究所入所
1989年 米国カリフォルニア州立大学バークレー本校心理学科 客員研究員
1990年 NTT基礎研究所 研究企画部 育成担当課長
1996年 NTTコミュニケーション科学研究所 研究企画部長
2001年 10月 国際電気通信基礎技術研究所(ATR)メディア情報科学研究所 所長
2002年 同上 知能ロボティクス研究所長 兼務
2009年 同上 知能ロボティクス研究所長
ATRフェロー
2011年 同上 社会メディア総合研究所長・知能ロボティクス研究所長 兼務
現在に在る

ゲストパネリスト **ユールン ワン Yulun Wang**

1989年 手術用ロボット開発の先駆けとなる Computer Motion社設立
2000年 米国科学アカデミーにて最も優秀な若手技術者の一人として選出
2002年 遠隔操作医療ロボットシステムを開拓し、現InTouch Health社設立
2005年 アーンスト・アンド・ヤングが起業家の努力と功績を称える国際的表彰制度であるアントレプレナー・オブ・ザ・イヤーのファイナリストとしてWang氏を指名
2007年 カリフォルニア大学サンタバーバラ校より Venky Narayananurt企業家リーダーシップ賞を授与
2008年 北米で急成長をとげた企業の39位に選出
Inc誌による米国の急成長民間企業ランキング(Inc. 500)にランクイン(289位)すると共に、同誌の医療系企業トップ100にランクイン。

ゲストパネリスト **フィorenzo ガリ Fiorenzo Galli**

政治経済学、財政学をミラノ大学にて修了。2001年よりレオナルド・ダ・ヴィンチ国立科学技術博物館の館長に就任する。また「コンフィンダストリア」と「アソソナルダ」において様々な役職を歴任し、現在は両連盟の理事を務める。また科学技術文化展部の科学文化普及委員会の運営委員を務める。ECSITE(ヨーロッパ科学技術産業展覧会委員会)、ドイツバイエルン州のドイツ博物館理事、また多数の科学委員会のメンバーでもある。国立科学技術博物館のマネジメントにおいて「イタリアで最も重要な科学博物館における教育的機能の充実に際しての献身的な取り組み」が評価され、「オランダ科学特別賞」の授与を受けた。

パネリスト **うめき まさお 梅垣 昌士**

大阪大学 大学院医学系研究科
1998年 大阪大学医学部附属病院
1999年 市立吹田市民病院脳神経外科
2000年 大阪府立母子保健総合医療センター 脳神経外科
2001年 市立泉佐野病院脳神経外科
2003年 マックスプランク神経研究所(ドイツ、ケルン) リサーチフェロー
2007年 錦秀会 阪和記念病院脳神経外科 大阪大学医学部脳神経外科特任助教
厚生労働省医政局研究開発振興課ヒト幹細胞臨床研究対策専門官
大阪大学附属病院未来医療センター 特任講師
2011年 大阪大学臨床工学融合研究教育センター 特任准教授

ゲスト **タマイ ヒロフミ 玉井 博文**

株式会社マッスル 代表取締役
1988年 先進的なロボット開発に挑戦。制御機器開発ベンチャーとしてマッスル株式会社を設立。
1994年 大阪府研究開発型企業の認定を取得 ロボット用人工筋肉を研究、その応用として最先端の繊維機械や医療器を開発。
2000年 自社ブランドのロボット用人工筋肉をアメリカ市場に投入
注目を浴びるとともに、以降アジアやヨーロッパ市場にも投入。この分野のNo.1商品の地位を確立。
2010年 上海万国博日本産業館に世界初の壁面昇降人型ロボットを出展
願のロボットビジネスに参入。会社設立以来、関わった製品のほとんどが世界規模のベストセラーとして活躍。

コーディネーター **あさだ みのる 浅田 稔**

大阪大学大学院工学研究科知能・機能創成工学専攻教授
1997年、大阪大学大学院工学研究科知能・機能創成工学専攻教授、工学博士(大阪大学)となり現在に至る。1990年代初頭からロボカップの活動を開始。1997年、人工知能国際会議で第1回ロボカップ国際大会を開催、阪大チームを優勝に導く。2002年、福岡での第6回大会では世界30カ国から約200チーム、1000人の競技参加者、12万人の市民がロボカップを観戦。
役員/日本ロボット学会(元理事)、日本機械学会(2003年4月からフェロー)、日本赤ちゃん学会(副理事長)、IEEE(fellow since 2005) R&A, CS, AAAL など多くの要職を歴任。
受賞/情報処理学会研究賞、IEEE/RSJ IROS'92 Best Paper Award、日本ロボット学会論文賞、など多数受賞。



電話・FAX・メールにて申込者全員(1枚につき2名までの住所・氏名(フリガナ)・電話及びFAX番号をご記入の上、下記までお申し込み下さい。

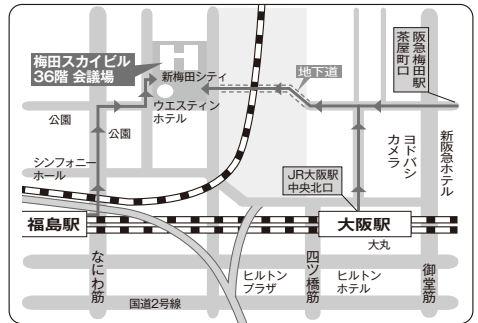
締切 **平成23年10月31日(月)**

先着順で、定員(100名)になり次第締切ります。

電話の場合 **06-6348-1428**

FAXの場合 **06-6348-1375**

メールから **monodzukuri@jtbc.com.co.jp**



参加申込書

個人情報のお取扱いについて

個人情報の利用目的について
個人情報の第三者提供について

ご提供頂いた個人情報は、参加証の送付・当日の参加確認及び緊急の場合のご連絡に利用いたします。それらの目的以外に使用する場合は、事前に参加者に通知してご同意を頂きます。
お預かりした個人情報は、業務委託先および主催者において適正な業務運営を目的に共同利用する場合がございます。

企業名	所属	氏名(フリガナ)	連絡先
		フリガナ	電話
		フリガナ	